

世界が進むチカラになる。



経済調査

グラフで見る関西経済 (2025年6月)

2025年6月10日

調査部 主任研究員

塚田裕昭

三菱UFJリサーチ&コンサルティング

今月の景気判断～横ばい圏で推移している

【今月のポイント】

- 関西経済は、横ばい圏で推移している
- 3月の生産は3ヵ月連続で前月比でマイナスとなり、弱含んでいる
- 4月の実質輸出は2ヵ月連続で減少、均してみると横ばい圏で推移している
- 賃金指数(大阪3月)は、名目ではプラスが続いているが、実質では3ヵ月連続でマイナスとなった
- 小売販売額(4月)は、物価上昇もあって名目では前年比プラスが続いているが、実質では3ヵ月連続でマイナスとなり、総じてみれば横ばい圏で推移している
- 4月の百貨店免税売上は、インバウンドの減少が響き、前年比で2ヵ月連続のマイナスとなった

項目	現状
景気全般	横ばい圏で推移している
生産	弱含んでいる(↓)
輸出	横ばい圏で推移している
設備投資	増加している
雇用	持ち直しの動きがみられる
賃金	持ち直している
個人消費	横ばい圏で推移している
住宅投資	横ばい圏で推移している
公共投資	例年並みの水準となっている(↓)

注: ()内は前月からの変化の方向

生産は「横ばい圏で推移している」から下方修正(↓)

公共投資は「高めの水準となっている」から下方修正(↓)

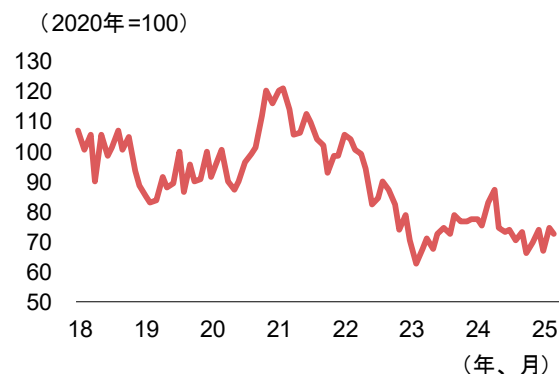
生産

3月の鉱工業生産(関西)は前月比-3.4%と3ヵ月連続でマイナスとなり、弱含んでいる。電子部品・デバイス、電気機械、化学、汎用・生産用・業務用機械が減少した。先行きについては、トランプ関税による下押し圧力により弱含むと見込まれる。

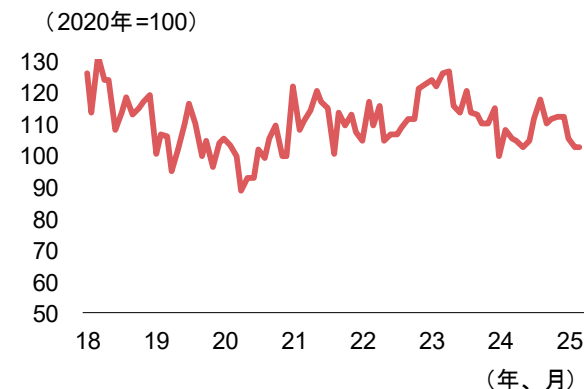
鉱工業生産指数



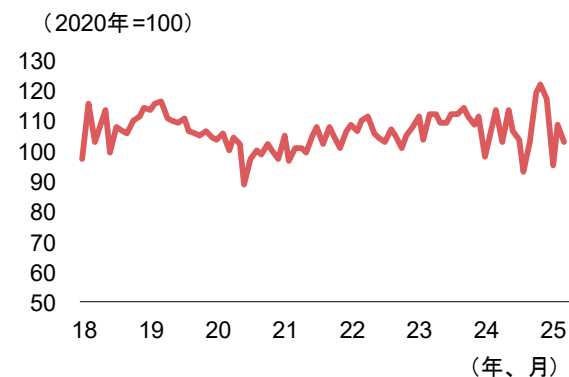
電子部品・デバイス



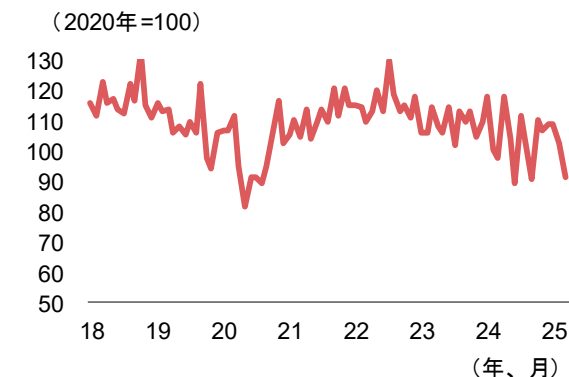
電気機械



化学



汎用・生産用・業務用機械



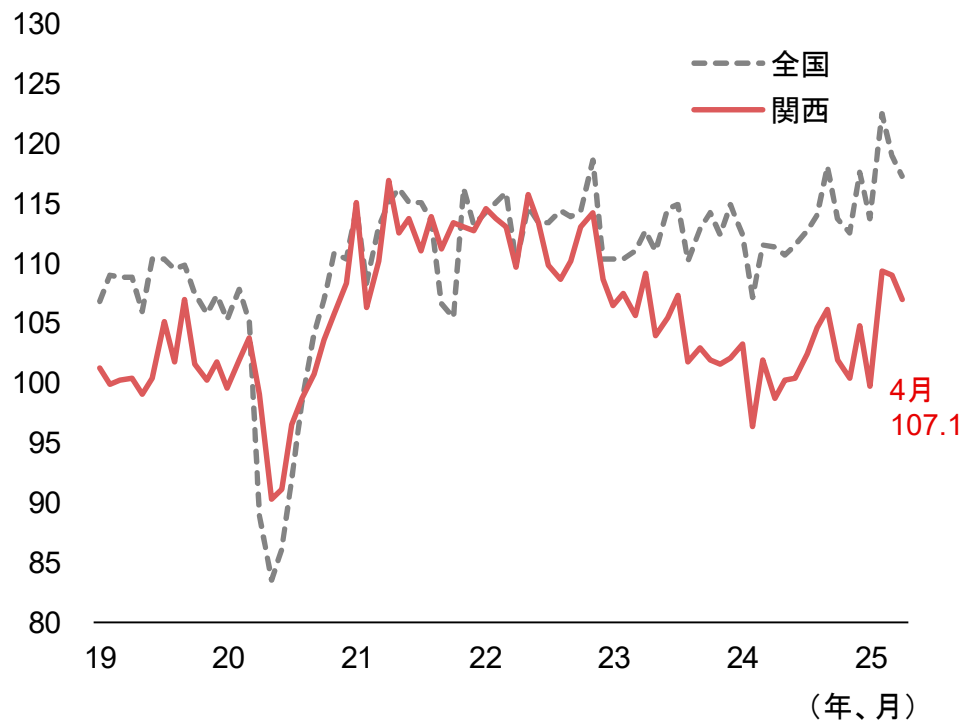
(出所)経済産業省「鉱工業生産動向」

輸出

4月の実質輸出(季節調整値)は、前月比-1.8%の107.1と2ヵ月連続で減少した。均してみると横ばい圏で推移している。当社試算による4月の輸出数量(季節調整値)は3ヵ月ぶりに減少した。先行きについては、トランプ関税による海外の景気減速から下振れるリスクがある。

実質輸出指数(季節調整値)

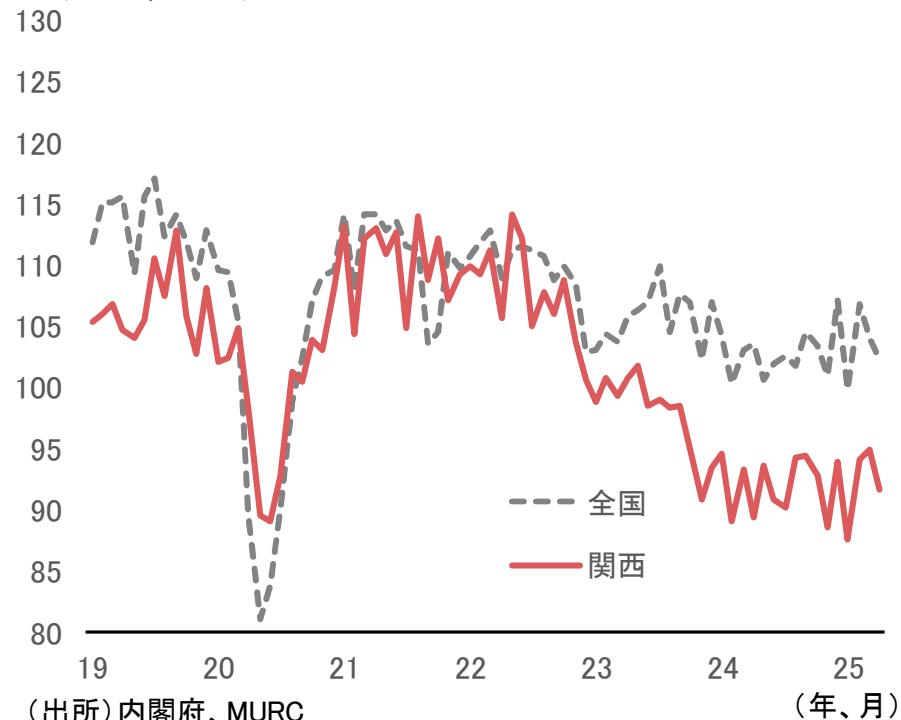
(2020年=100)



(出所) 日銀大阪支店「実質輸出入」

輸出数量指数(季節調整値)

(2020年=100)



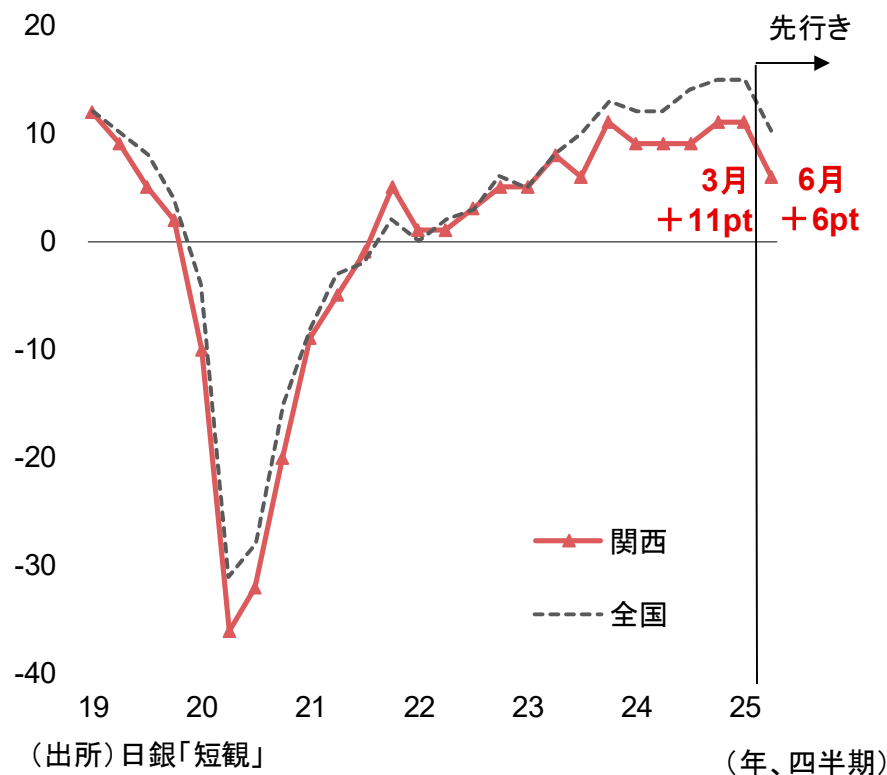
(出所) 内閣府、MURC

(注) 関西の数量指数はMURC試算。輸出金額(指数)を輸出価格指数(全国)で除したもの。

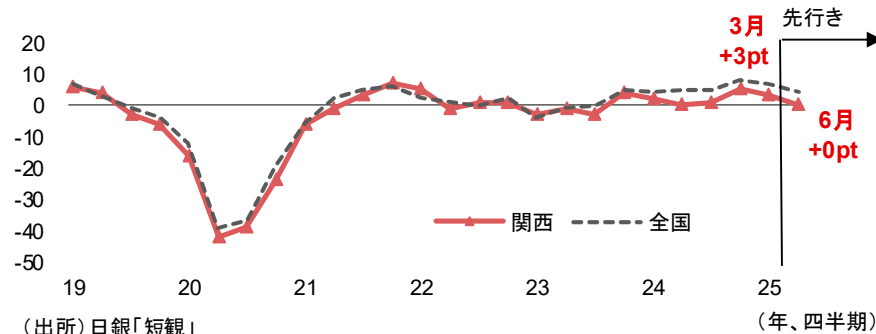
企業景況感(日銀短観) ※以下は4/1公表の3月調査。6月調査は7/1公表予定

日銀短観3月調査の業況判断DI(「良い」-「悪い」)は、全産業で+11ptと12月調査から横ばい。製造業は+3ptと2pt低下、非製造業は+18ptと横ばいとなった。業種別に見ると、製造業では繊維、鉄鋼、輸送用機械が低下。非製造業は小売、情報通信が上昇する一方、建設、宿泊・飲食サービスなどが低下した。先行き(6月)については、製造業、非製造業ともに低下が見込まれている。

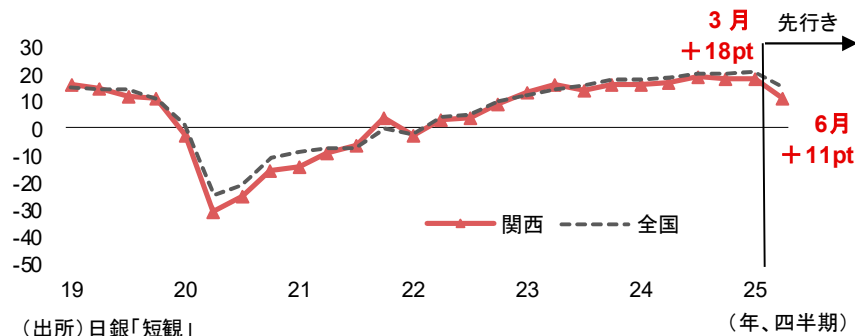
短観 業況判断DI「全産業」



同 製造業



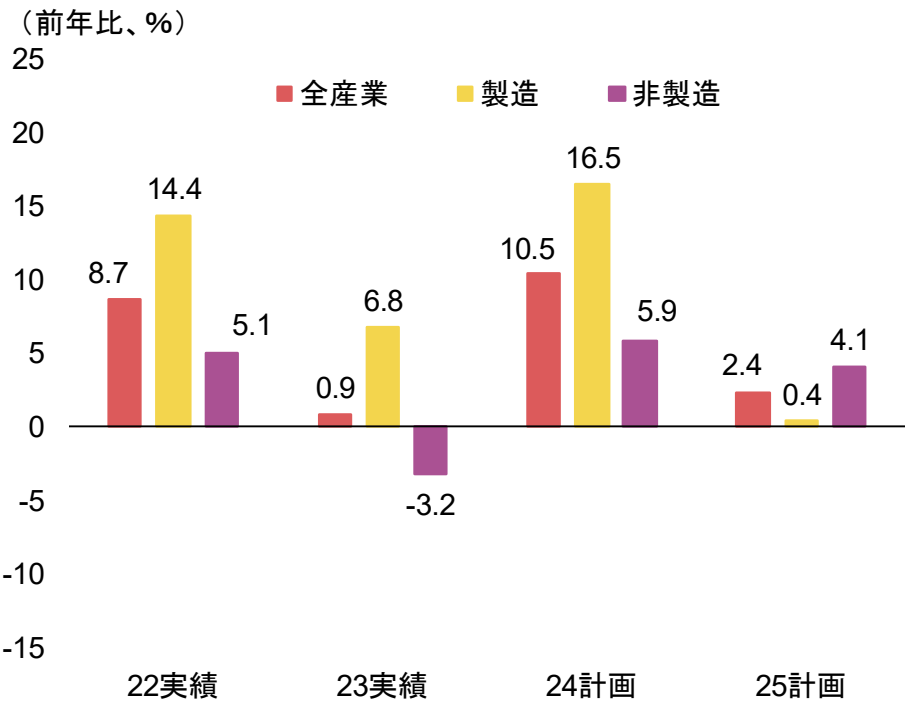
同 非製造業



設備投資(日銀短観) ※以下は4/1公表の3月調査。6月調査は7/1公表予定

日銀短観3月調査によると、24年度の設備投資は全産業で+10.5%と見込まれている。25年度については、3月調査は通常前年水準と同程度と見込まれる傾向があるが、全産業で+2.4%の計画となっている。業種別では、化学、金属製品、輸送用機械、小売などが前年比増加の計画となっている。

設備投資 実績・計画



設備投資額(前年比%)

	23年度 実績	24年度計画			25年度 計画
		今回調査	(前回調査との差異)	前回調査	
全産業	0.9	10.5	(-4.4)	14.9	2.4
製造業	6.8	16.5	(-3.8)	20.3	0.4
非製造業	-3.2	5.9	(-4.8)	10.7	4.1

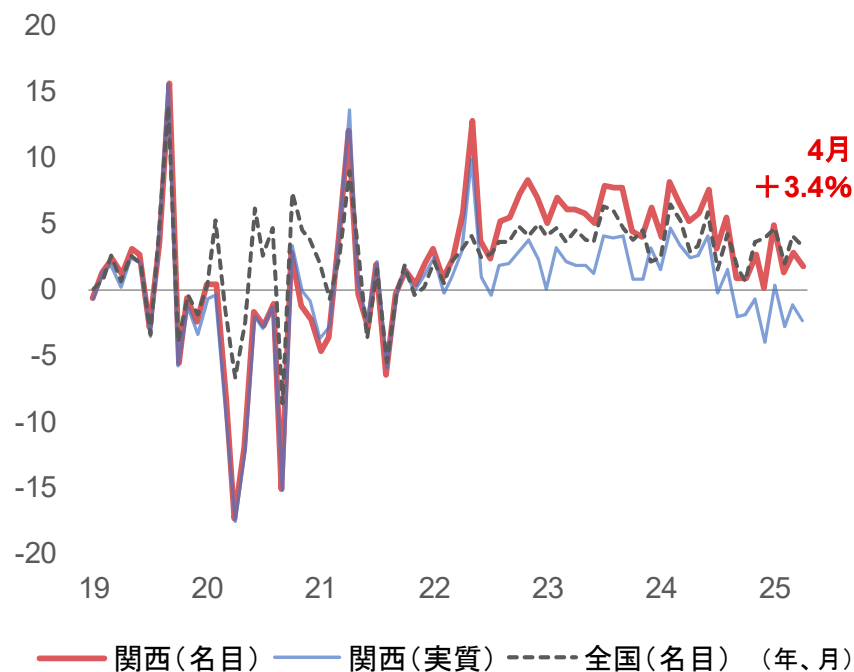
個人消費(小売売上、自動車販売)

4月の小売販売額(名目)は、前年比+3.4%と21年10月以降増加が続いている。実質値は前年比-2.3%と3カ月連続でマイナスとなった。

4月の新車販売は、認証不正による供給不足から前年が低水準であった反動で前年比+11.8%と増加した。

小売販売額(6業態計)

(前年比、%)

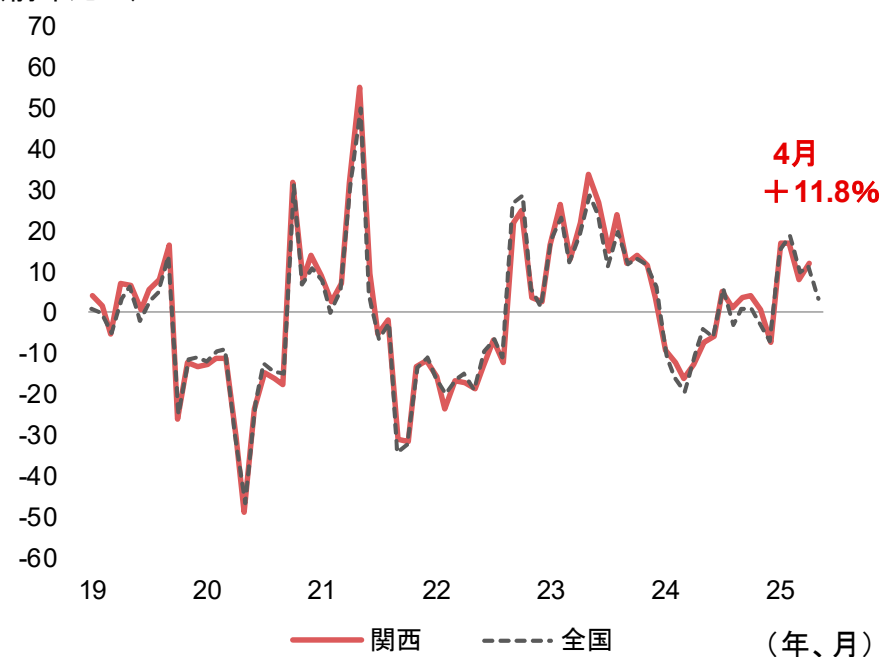


(出所) 経済産業省「商業動態統計」からMURC試算

(注) 百貨店、スーパー、コンビニ、ドラッグストア、家電量販店、ホームセンターの合計
「持家の帰属家賃を除く総合(関西)」で実質化

新車販売台数(含む軽)

(前年比%)

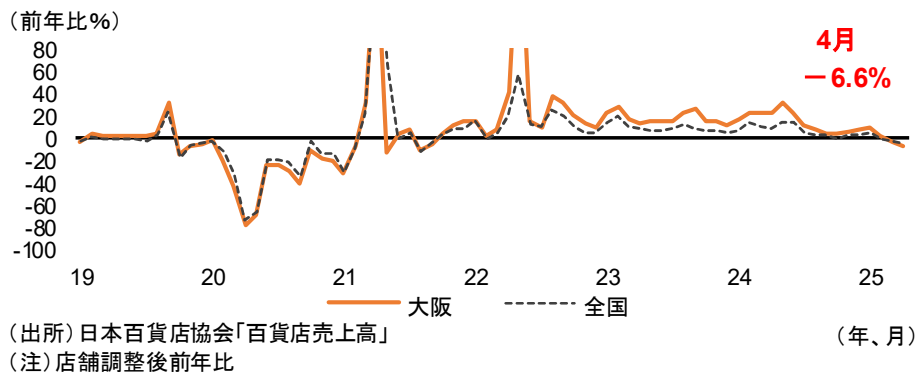


(出所) 日本自動車販売協会連合会「新車販売台数状況」
全国軽自動車協会連合会「軽四輪車新車販売」

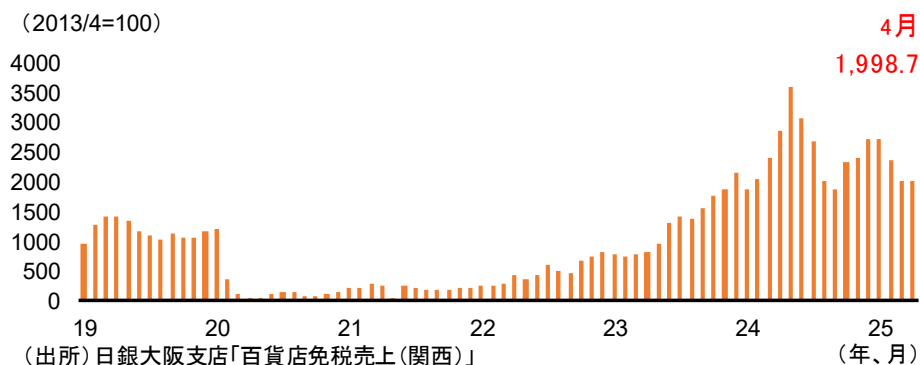
個人消費(業態別)

4月の百貨店売上(大阪)は、前年比-6.6%と2ヵ月連続でマイナスとなった。昨年の水準が高かったことに加え、円高が進んだことによるインバウンドの減速が響いた。京阪神百貨店免税売上指数は前年比-29.8%の1,998.7と2ヵ月連続でマイナスとなった。

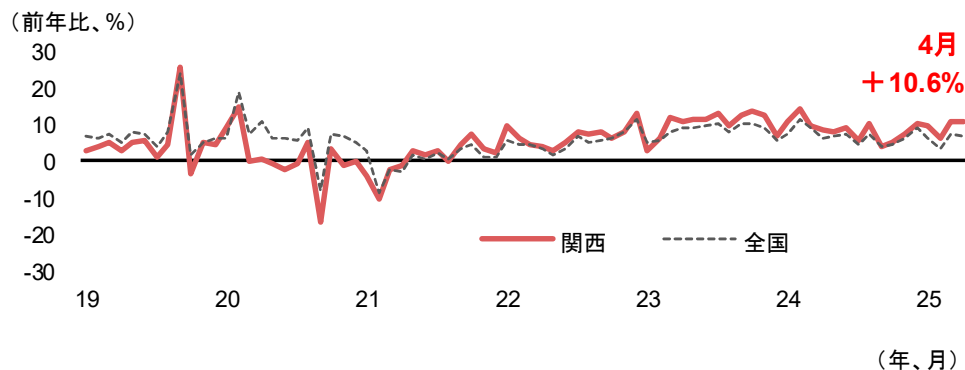
百貨店売上高



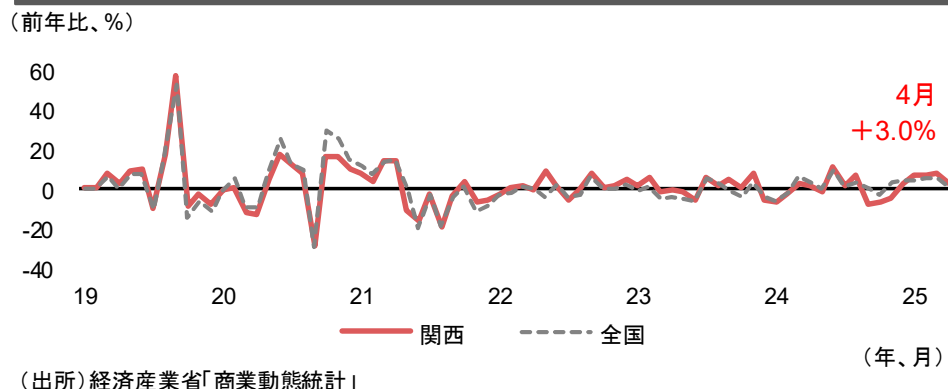
京阪神百貨店免税売上高



ドラッグストア販売額



家電大型販売店販売額

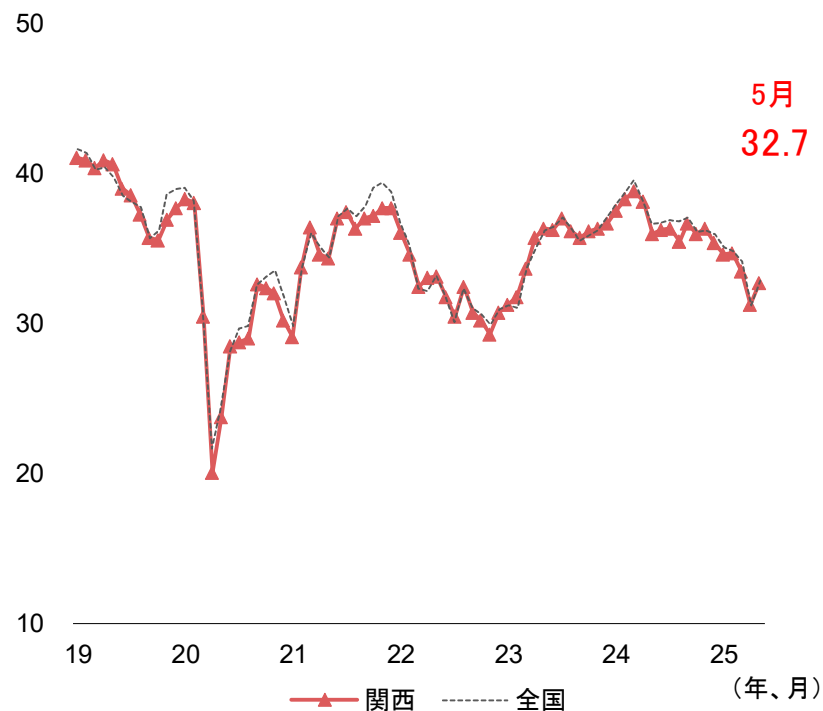


マインド・景況感

5月の消費者態度指数(季節調整値)は32.7と2ヵ月ぶりに上昇した。

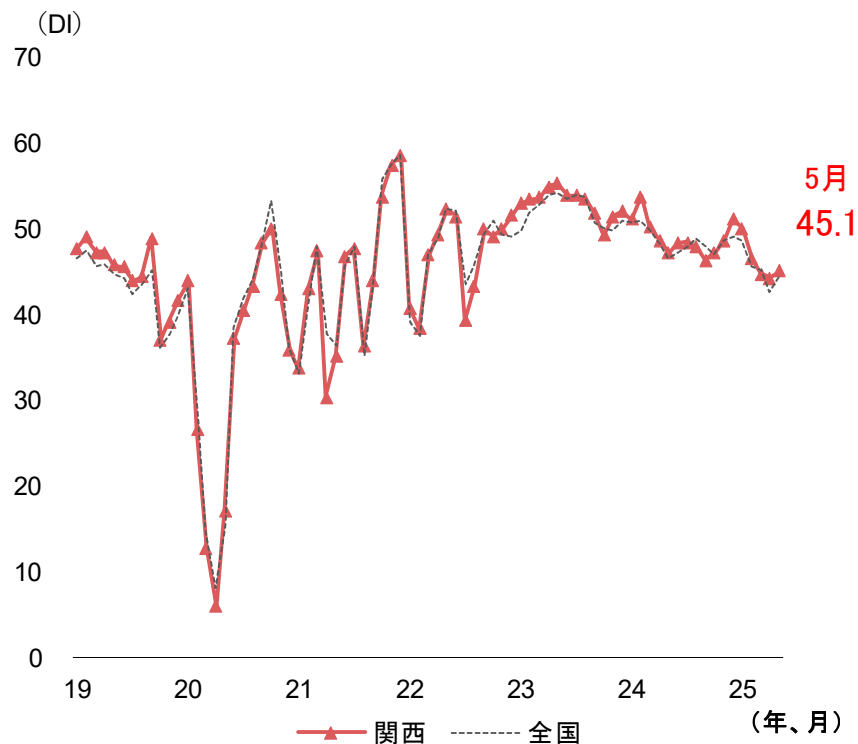
5月の景気ウォッチャー調査(現状判断DI、季節調整値)は前月差0.8pt上昇の45.1となったが、横ばいを示す50を下回る状態が続いている。物価高による支出控え、円高によるインバウンド消費額の減少を指摘する声がある一方、大阪・関西万博による売り上げ増も指摘されている。

消費者態度指数



(注) 関西の季節調整値はMURC試算
(出所) 内閣府「消費動向調査」

景気ウォッチャー調査(現状判断)



(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

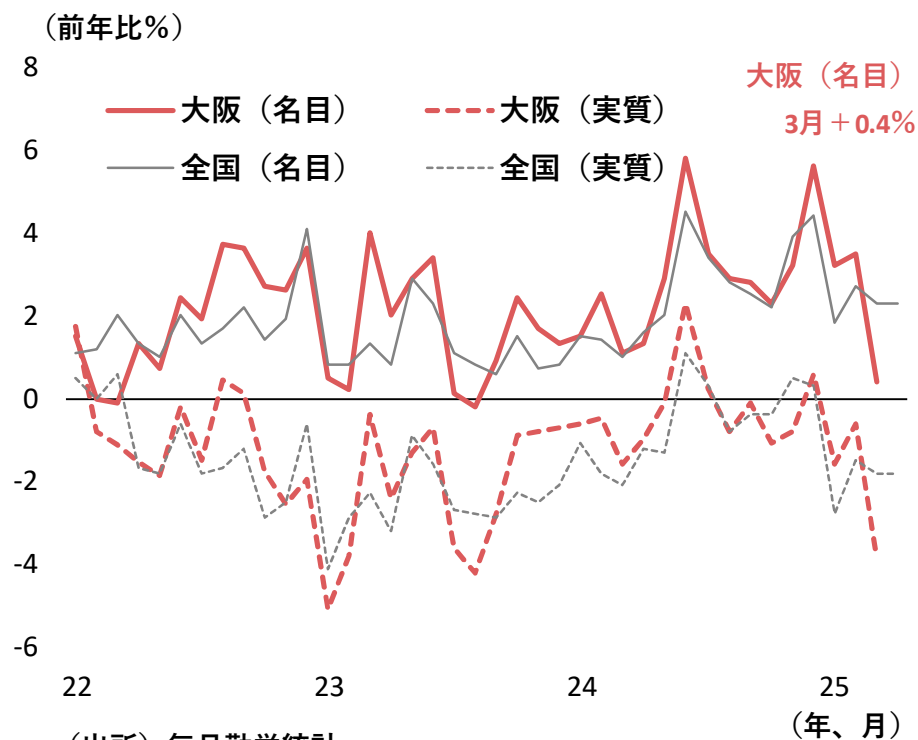
賃金・雇用

3月の大阪の賃金指数は、名目で前年比+0.4%と前年比プラスが続いているが、実質では同-3.8%と3カ月連続でマイナスとなった。

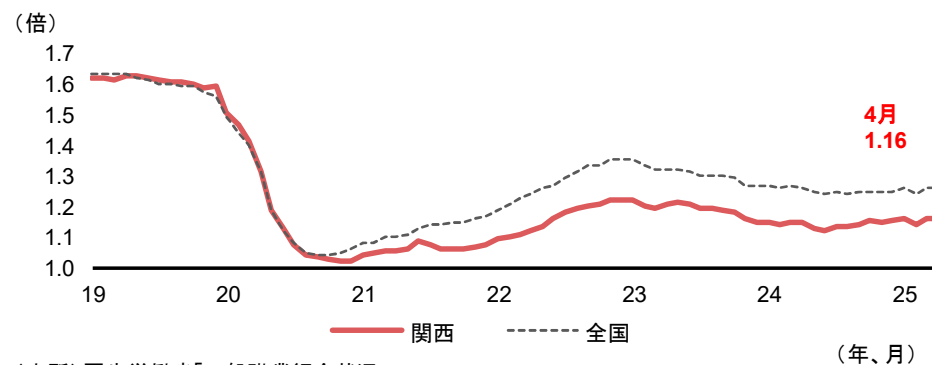
4月の関西の有効求人倍率は1.16倍と前月と同水準。求人倍率は全国と比べ低めで推移している。

25年1-3月期の失業率は2.6%と前期から低下、就業者数は増加した。

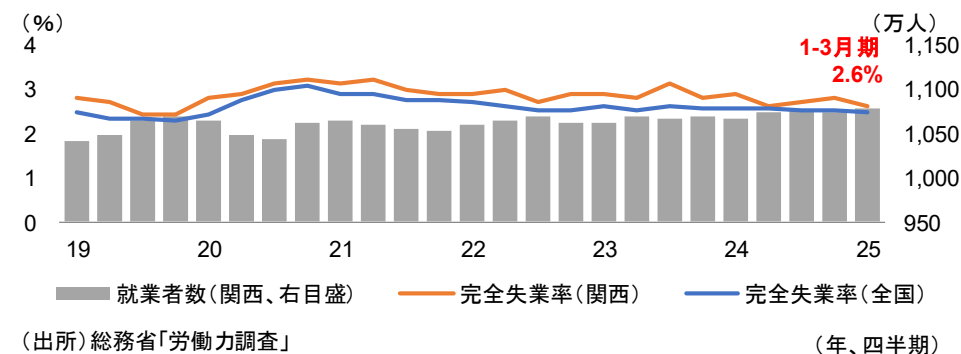
名目賃金指数



有効求人倍率(季節調整値)



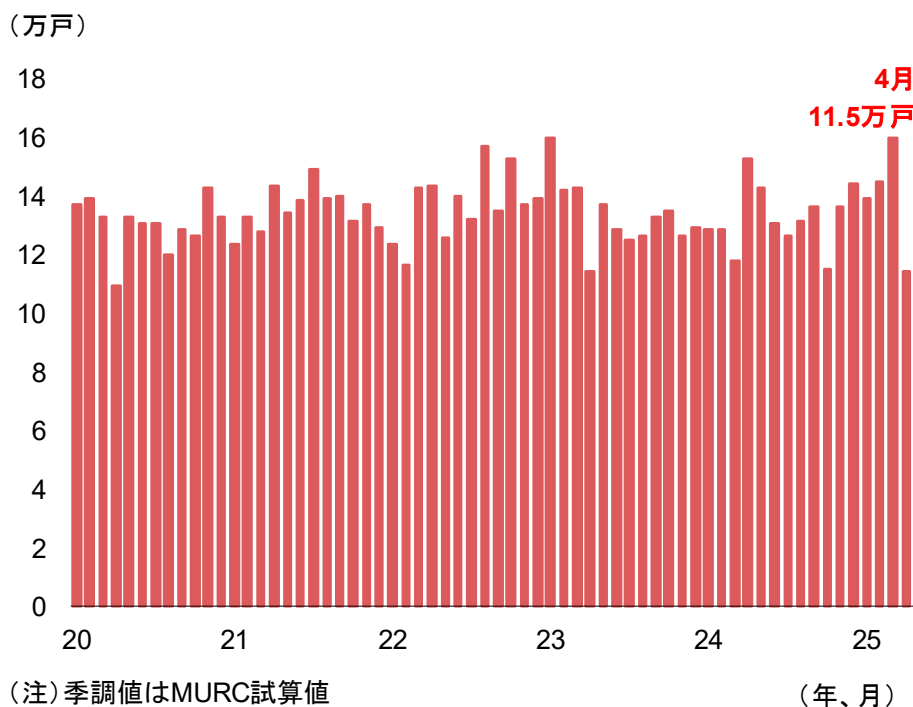
失業率と就業者数(季節調整値)



住宅投資

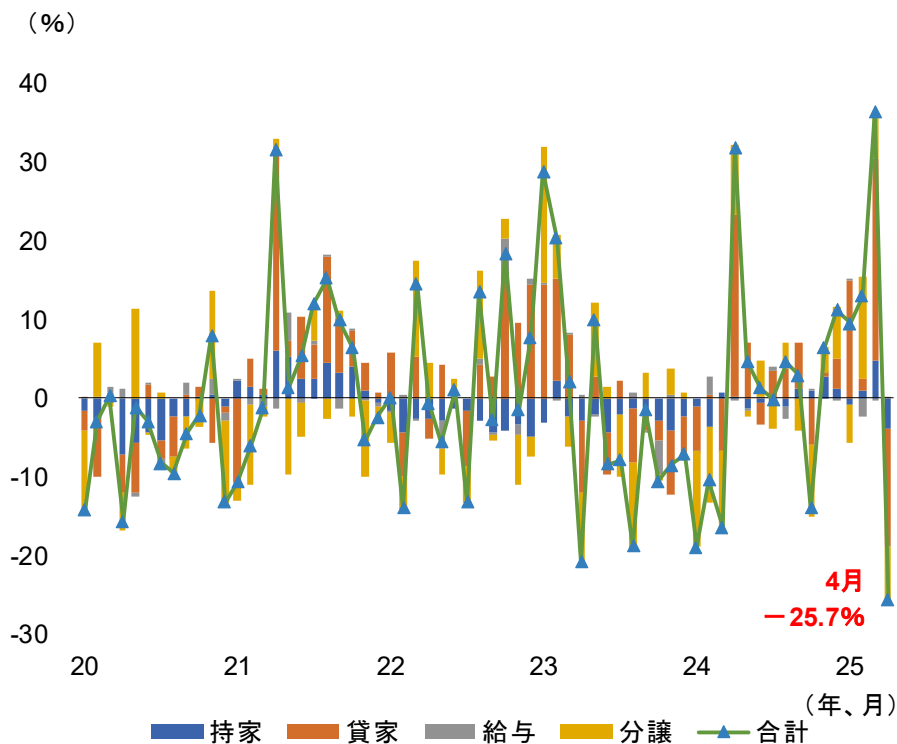
4月の住宅着工は、季調・年率11.5万戸と前月から大幅に減少した。前月、省エネ基準への適合義務化等を前に全国で駆け込みが生じたことの反動とみられる。前年比でも-25.7%と大幅減。持家、貸家、分譲のいずれも減少した。先行きは駆け込み前の水準に戻した後、横ばい圏の推移が続くと見込まれる。

新設住宅着工戸数(季調済年率換算)



(注) 季調値はMURC試算値
(出所) 国土交通省「建築着工統計」

新設住宅着工戸数(前年比)

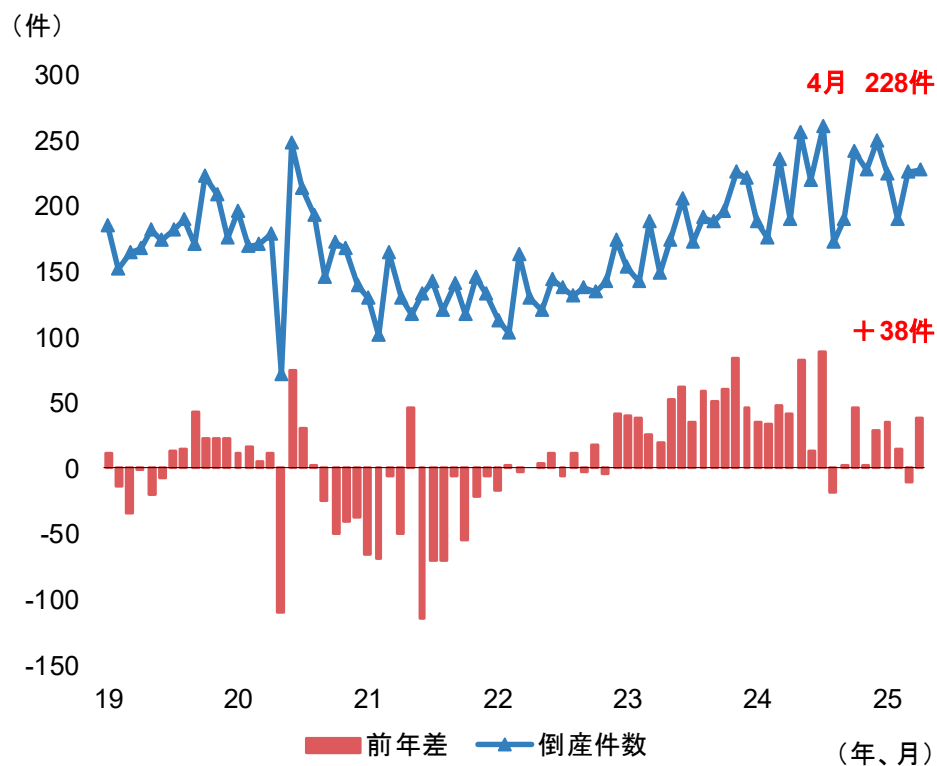


(出所) 国土交通省「建築着工統計」

倒産

4月の倒産件数は228件と前年から38件増加。コロナ前と概ね同程度の水準となっている。

倒産件数

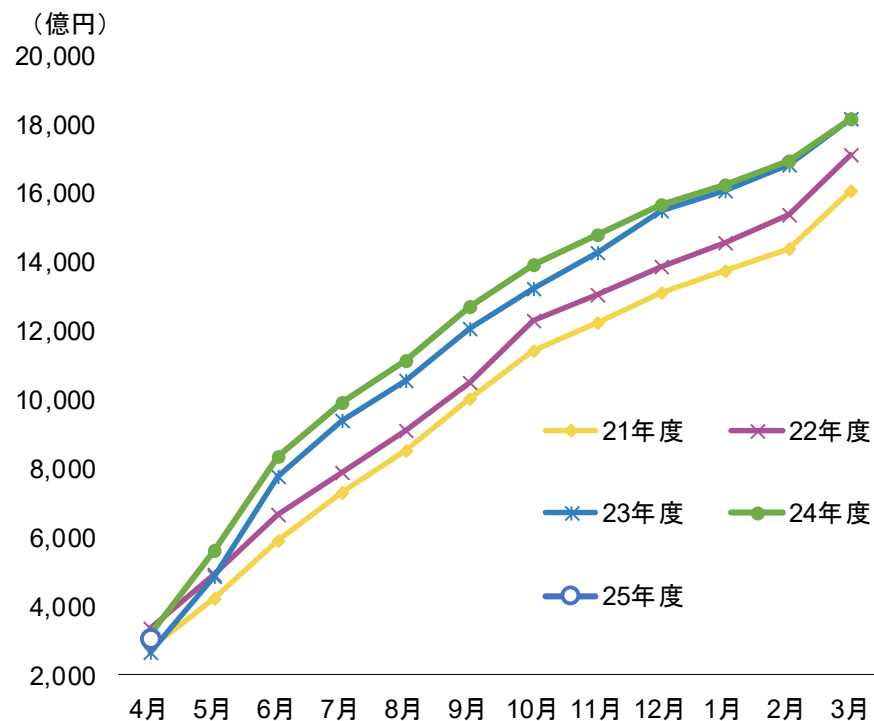


(出所) 東京商工リサーチ「全国企業倒産状況」

公共投資

4月の公共工事請負金額は前年比-3.9%の3,057億円。概ね例年並みの水準となった。

公共工事請負金額(年度累計)



(出所) 東日本建設業保証「公共工事前払金保証統計」

ご利用に際して

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

(お問い合わせ)

調査・開発本部 調査部 塚田

TEL: 03-6733-1626 E-mail: chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー